



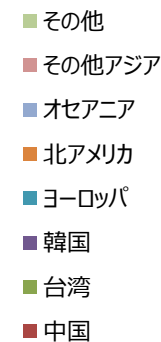
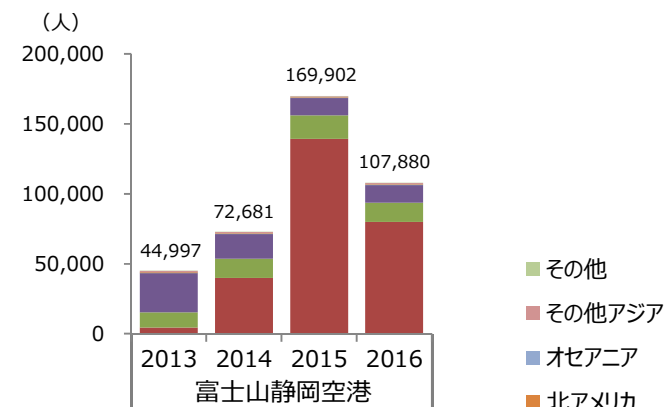
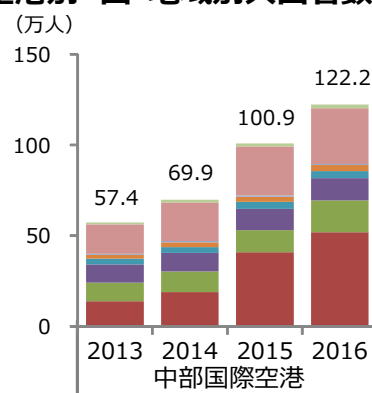
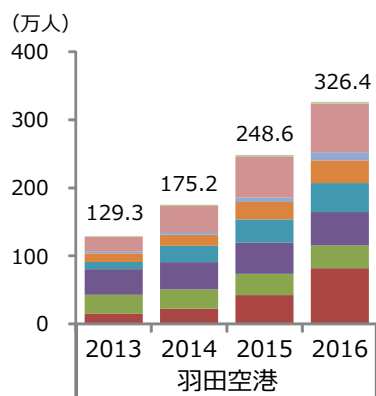
# 「数字で見る静岡県静岡市のインバウンド」



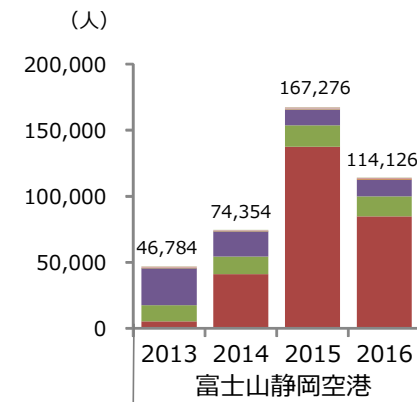
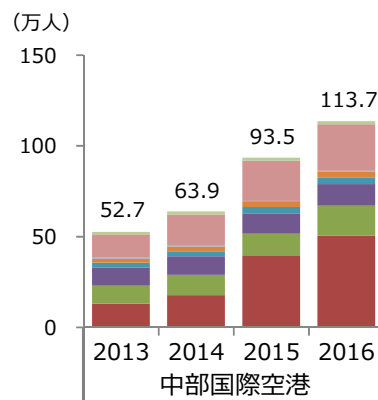
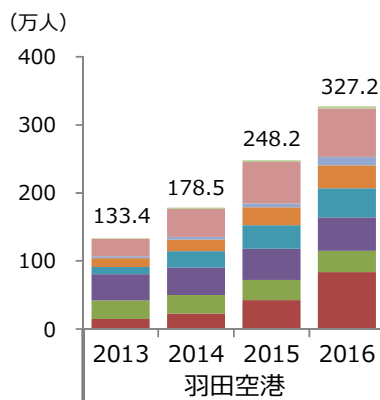
## 空港別／国・地域別訪日旅行者数（1）

- ◆ 静岡市につながる玄関口としての空港は、羽田空港（関東地方から）、中部国際空港（中部地方から）に加え、中国・韓国へLCC（格安航空会社）が就航している地方空港として富士山静岡空港がある。
- ◆ 羽田空港、中部国際空港はここ4年間一貫して入国者・出国者ともに増加している。富士山静岡空港は2015年まで増加していたが、2016年は減少となった。
- ◆ 羽田空港は世界中から幅広く来ている。中部国際空港は中国、台湾、その他アジアが多い。富士山静岡空港は中国がほとんどを占め、次いで台湾・韓国からとなっている。

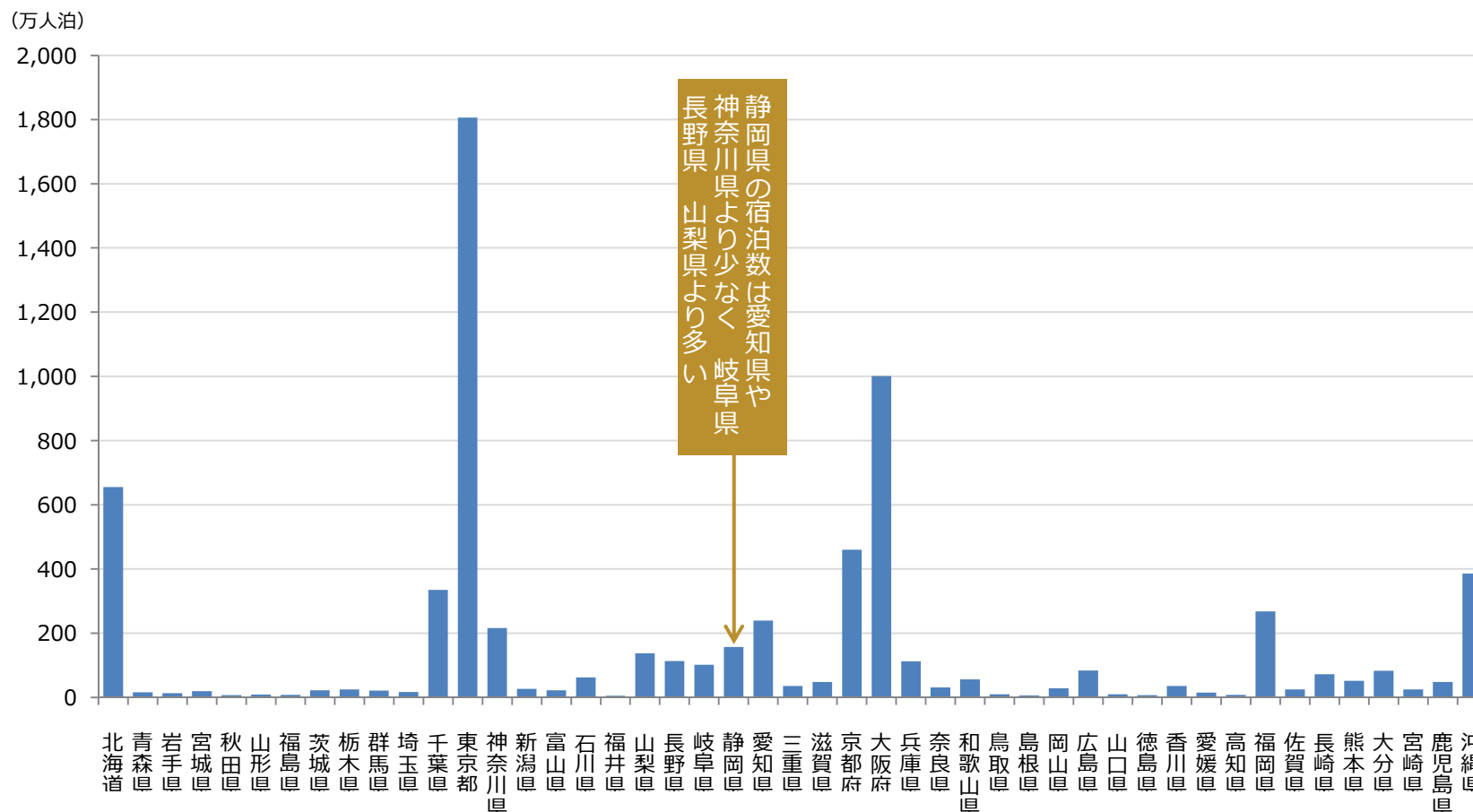
### 空港別 国・地域別入国者数



### 空港別 国・地域別出国者数



## 県別外国人宿泊数

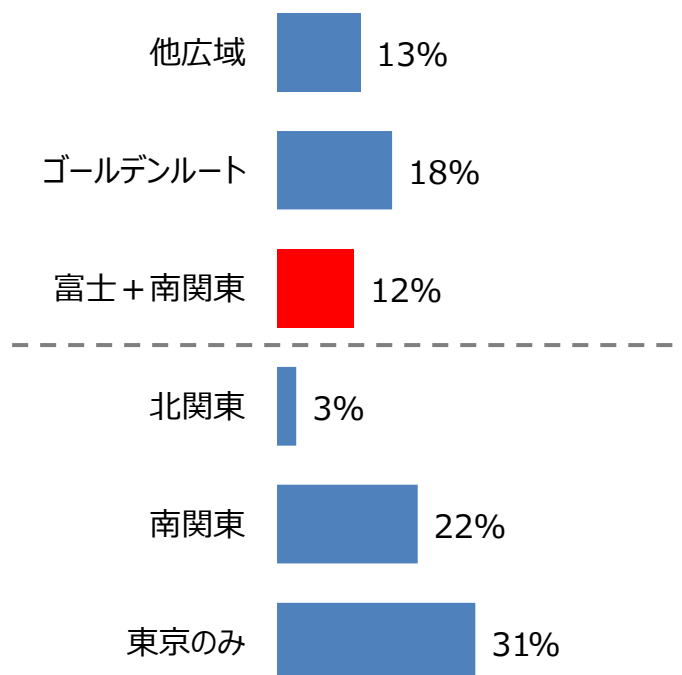


※2016年 延宿泊者数（1人が2泊した場合2人とカウント）

## 首都圏、及び関西で入国した訪日客の訪問地

- ◆ 首都圏2空港で入出国した旅行者のうち、広義で静岡市が含まれると思われる「富士 + 南関東」を訪問したのは12%である。

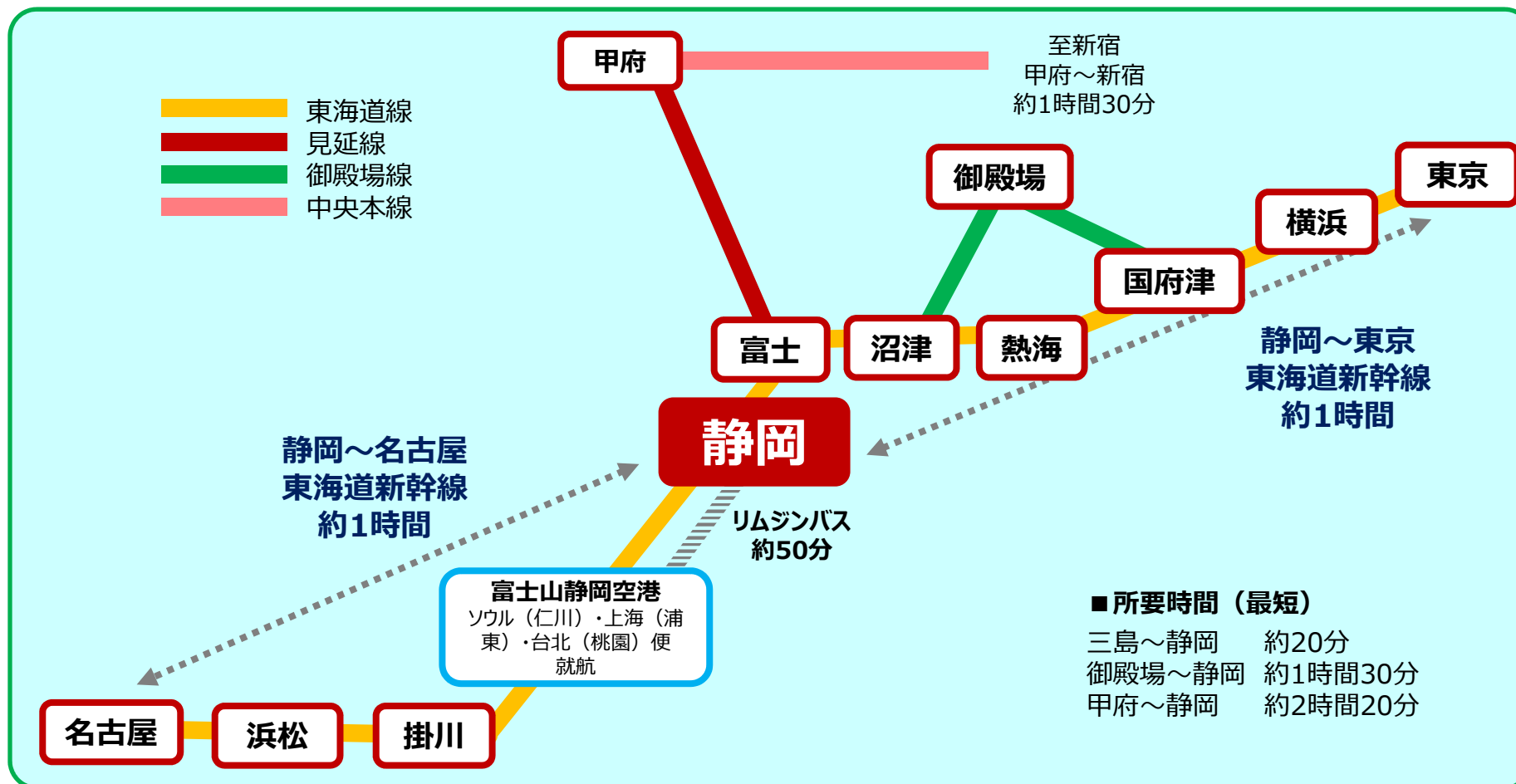
### 首都圏2空港で入出国した旅行者の訪問地



※観光庁「訪日外国人消費動向調査」2014年のデータを用いて首都圏2空港、及び関西空港で入出国した旅行者がどのような地域を周遊したか分析したもの。  
ゴールデンルートとは首都圏と関西の両方を訪問するパターンを指す。

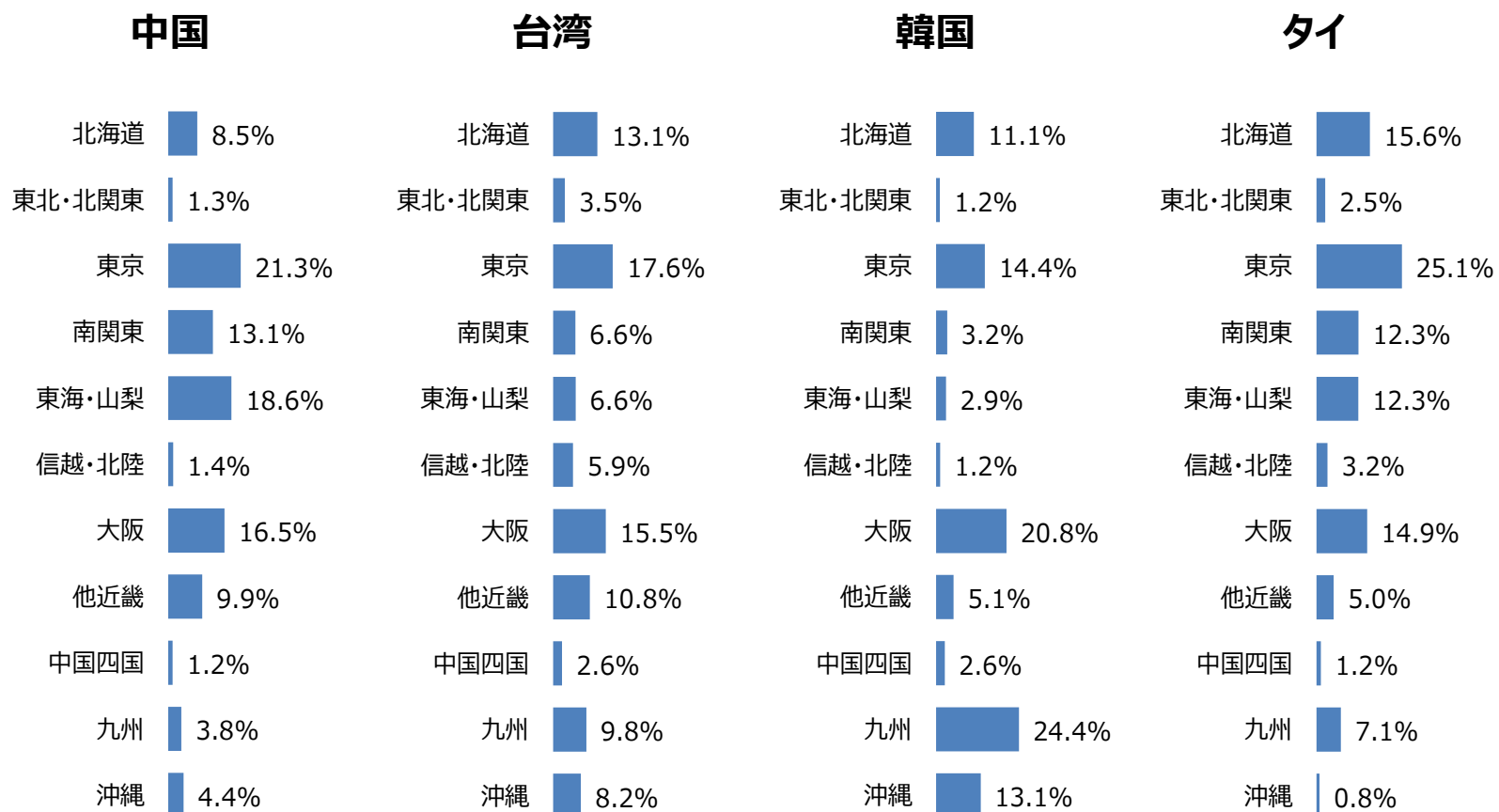
## 静岡市の誘客ルート

- ◆ 静岡市の主なインバウンド客の誘客ルートとしては、富士山静岡空港から直接バスで静岡駅に行くルート（所要時間最短約50分）、羽田空港⇒静岡駅のルート（同約1時間40分）、成田空港⇒静岡駅または中部国際空港⇒静岡駅のルート（同それぞれ約2時間）が考えられる。



## 主な国籍別にみた外国人の宿泊地の分布

- ◆ 静岡市に来訪していると考えられる主な国籍の旅行者の宿泊地分布をみると、台湾は分散傾向が強く（リピーターが多いため）逆に中国は大都市とその周辺への集中度が高い（初来日者の比率が高いため）。
- ◆ 韓国は西日本に偏在しており、九州が最も多い（近距離性）。タイは中国同様大都市とその周辺が多く、東海・山梨にも比較的宿泊している。



※2015年11月～2016年10月の数値

## 静岡県及び近隣都県のインバウンド概況（1）

- ◆ 静岡県内の宿泊施設に2016年に宿泊した外国人の国籍は、中国が97万8千人泊で最も多く、台湾が13万人泊、韓国が4万4千人泊、アメリカが3万8千人泊、タイ3万2千人泊で続く。
- ◆ 中国は2015年の伸びが著しいが、2016年は減少に転じた。一方、その他の国は近年横ばい傾向にある。
- ◆ 近隣の山梨県、東京都、神奈川県、愛知県、すべての都県で中国が最も多く、2015年に大きく伸びたが2016年は横ばいもしくは減少傾向にある。

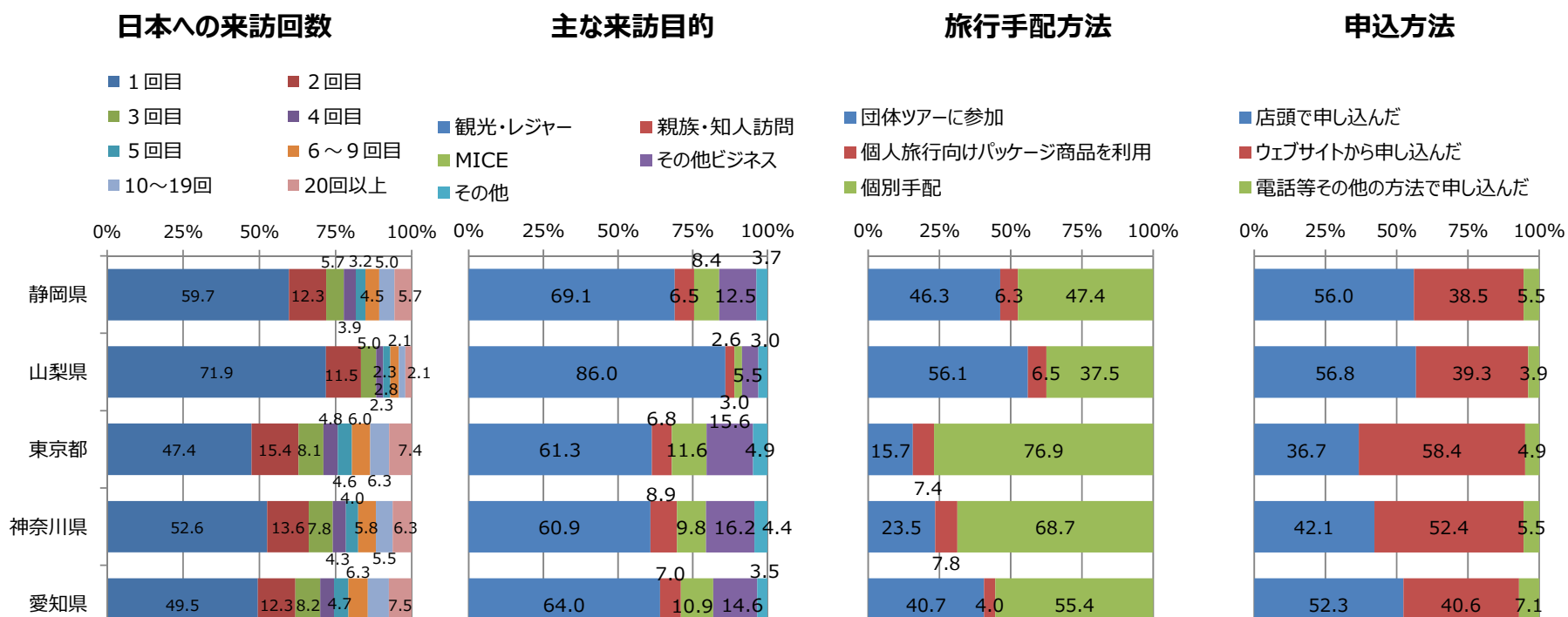
### 国籍（出身地）別外国人延べ宿泊者数



※数値は2016年  
※イタリア、スペインは2015年から追加

## 静岡県及び近隣都県のインバウンド概況（2）

- ◆ 静岡県及び近隣都県を訪問した外国人の来日回数をみると、初来日がほぼ半数を超え、東京都・愛知県などは2回目以降のピーターが多くなっている。
- ◆ 主な来訪目的は、「観光・レジャー」が全ての都県で6割以上を占める。
- ◆ 訪日旅行の手配方法は、山梨県を除くと「個別手配」が最も多い。一方、「団体ツアー」は山梨県で過半数、静岡県・愛知県で4割台を占めている。
- ◆ 申込方法は、静岡県・山梨県・愛知県は「店頭」が半数を超え、逆に東京都・神奈川県では「ウェブサイト」での申込みが過半数となる。



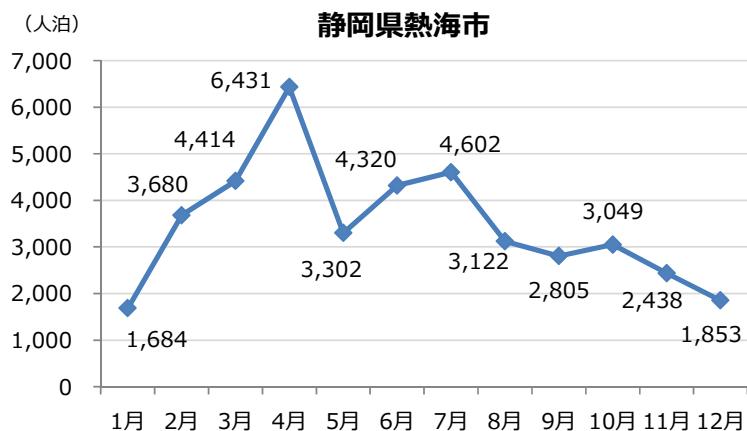
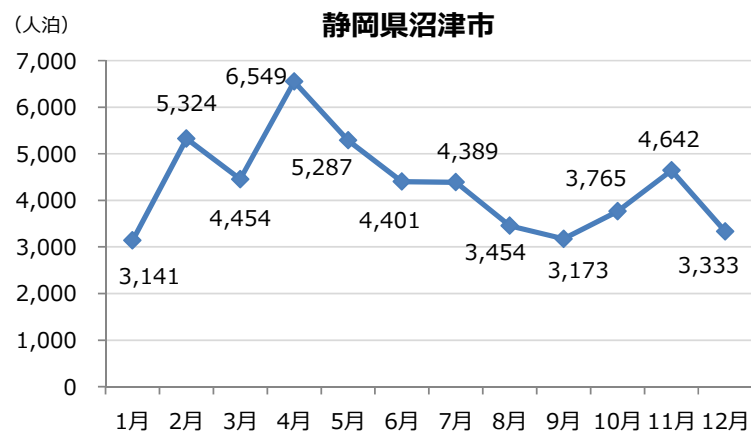
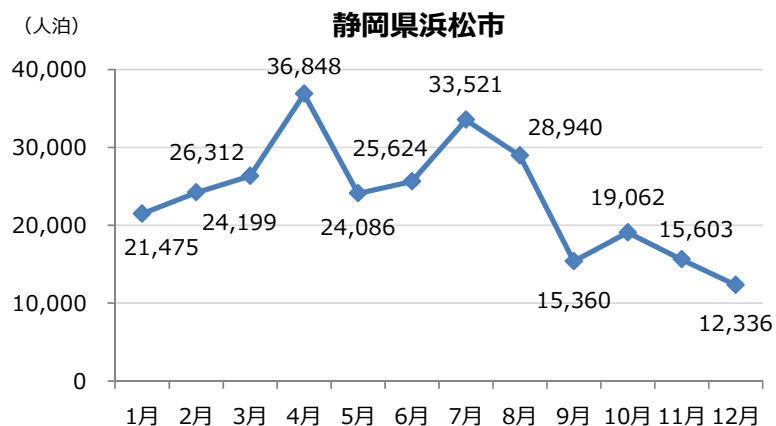
※「MICE」は「インセンティブツアー」「展示会・見本市」「国際会議」「企業ミーティング」、「その他ビジネス」は「研修」「その他ビジネス」、「その他」は「観光・レジャー」「親族・知人訪問」及び左記以外の計



## 各自治体の月別インバウンド概況（1）

- ◆ 外国人宿泊客の月ごとの動向をみると、静岡市は4月・7～8月が最も多く、3月～10月にかけて5,000人を超えた。
- ◆ 浜松市は4月・7月が特に多く、3万人を超えた。
- ◆ 沼津市は4月が多く、2月・5月でも5,000人を超えた。
- ◆ 熱海市は4月が特に多く、2～8月と10月で3,000人を超えた。
- ◆ 4市共通し、4月が最も多く、11月～1月にかけて減少傾向にある。

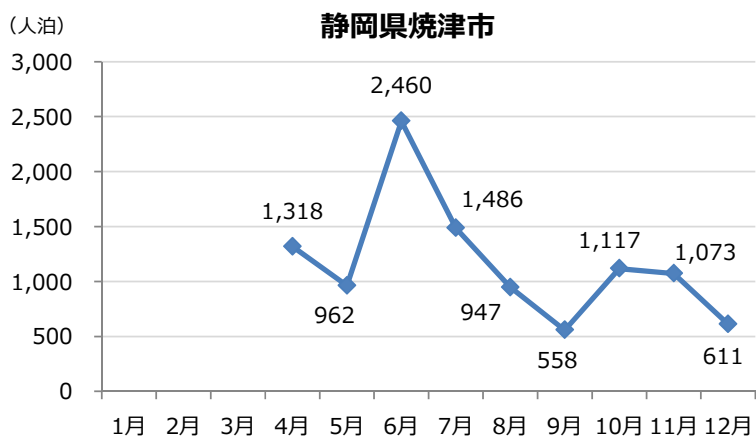
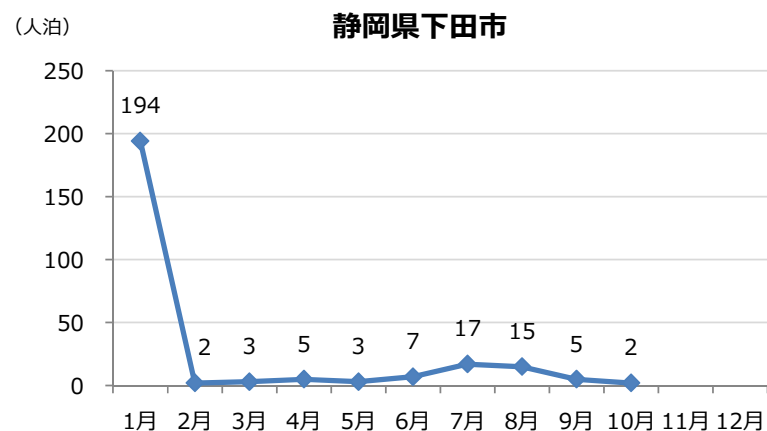
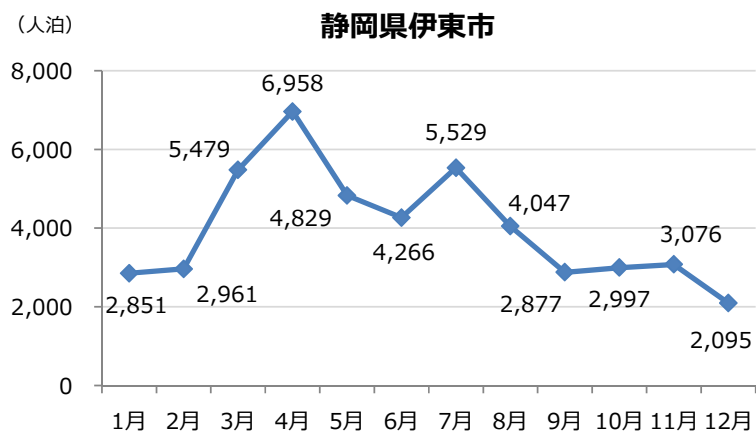
### 施設所在地別外国人延べ宿泊者数（2016年）



## 各自治体の月別インバウンド概況（2）

- ◆ 外国人宿泊客の月ごとの動向をみると、伊東市は4月が最も多く、3月・7月も5,000人を超えている。
- ◆ 下田市は1月は多いが、その他の月は20人未満と非常に少なくなっている。
- ◆ 焼津市は6月が最も多く、次いで4・7・10・11月が1,000人超えである。
- ◆ 3市とも12月は落ち込む傾向にある。

### 施設所在地別外国人延べ宿泊者数（2016年）



※下田市の11,12月、焼津市の1～3月はデータなし